

早明浦ダム再生事業環境検討委員会（第1回） 議事要旨

開催日時 平成30年9月6日（木） 10:30～15:10
開催場所 早明浦ダム・高知分水管理所 ふれあいホール及び現場
出席委員 荒川 良 高知大学教育研究部総合科学系教授
石川和男 松山東雲女子大学名誉教授
石川慎吾 高知大学名誉教授 特任シニアプロフェッサー
笹原克夫 高知大学教育研究部自然科学系教授
高橋勇夫 たかはし河川生物調査事務所代表
藤原 拓 高知大学教育研究部自然科学系教授

議事要旨

1) 規約について

機構提示の規約（案）が承認され、平成30年9月6日付で施行することとなった。

2) 委員長の選出

委員長には、笹原克夫委員が就任された。

委員長代理には、石川慎吾委員が指名され、就任された。

3) 委員会の公開方法

委員会の審議内容については、議事要旨をホームページに掲載することで了承された。

なお、委員からの指導・助言については、次のとおり。

- ・委員会の透明性を確保する観点から、委員からの指摘、指導事項を全て掲載すること。

4) 現地調査計画について

i 環境への取り組み方針、既往資料の整理

事務局より環境への取り組み方針、既往資料の整理について説明した。

なお、委員からの指導・助言については、次のとおり。

- ・大腸菌群数は、自然由来のものも含まれており、適切に評価するためにもふん便性大腸菌の計測結果を合わせて示すほうがよい。
- ・なお、ふん便性大腸菌の評価については、水浴場水質判定基準を参考にするとよい。
- ・今後の水質予測に関わることから、過去の淡水赤潮のデータを整理しておくこと。
- ・アユは、水産的に重要であることから、魚類の重要種に入れておくこと。
- ・陸上昆虫類の資料に整理された種のうち、文献により確認された種の中には生息場が限定的で改変区域周辺に生息することが考えられない種が掲載されているので再確認すること。
- ・改変区域周辺の地形データを収集し整理しておくこと。

ii 現地調査計画（案）

事務局より現地調査計画（案）について説明した。

なお、委員からの指導・助言については、次のとおり。

- ・猛禽類調査について、繁殖行動が確認された場合には繁殖結果を確認する必要があることから、5月以降の調査を検討すること。
- ・植物では、この地域にはゴシヨイチゴの生育が確認されており、生育しそうな環境の場など調査をきちんと実施すること。
- ・地形によりその場に応じた着生の植物の生育も可能性があるため、注意すること。
- ・淡水赤潮については、容量振替などによる局所的な流れの変化が関係するかもしれないため、既往資料の整理のほか水質シミュレーションモデルの構築では、パラメータの設定をしっかりと検討する必要がある。
- ・水質について、環境基準の見直しにより予測評価の項目が変わるかもしれないことから、国の環境審議会の議論などを注視しておくこと。
- ・陸上昆虫類調査については、ビーティング法も実施すること。また、冬季も調査を実施したほうが良い。なお、冬季は目撃法でも十分である。
- ・高知県のレッドデータブックなど、最新の情報で確認しておくこと。
- ・魚類調査について、下流河川の地蔵寺川合流点～山崎ダム～南小川合流点ではそれぞれ2箇所ずつ調査地点を設けたほうがよい。河川の調査地点の追加に伴い、関連する生態系の調査についても整理すること。

以上